

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	33	学 校 名	静岡県立清水南高等学校 静岡県立清水南高等学校中部	校 長 名	山田 正訓
------	----	-------	------------------------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	新学習指導要領に基づいた授業改善を進め、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。	週5日以上家庭学習に取り組む生徒の割合： 80% 「授業で力がついた」と答える生徒の割合： 80%	中等部：78.9% 高 校：74.0% 全 体： 76.5% 中等部：90.1% 高 校：87.5% 全 体： 88.8%	B	高校の週5日以上家庭学習は、昨年度と比べて6.3ポイント増加したが、成果目標を達成することはできなかった。今後も、生徒が学習習慣を身に付けるための実践と授業改善に取り組む。
		授業公開週間等の取組に満足する教員の満足度： 70% 職員研修の外部講師による講演に対する教員の満足度： 70%	授業公開週間の満足度： 84.8% 講演に対する満足度： 93.8%	A	授業公開週間についての教員満足度は高い。「ちゃんと見週間」の実施内容を変更したことも好評であったため、継続する。また、教員が相互に授業を見て刺激し合う雰囲気を醸成する。
		校内研修での学びを生かして授業改善に取り組んだ教員の割合： 80%	93.9%	A	本年度は、研修内容のニーズ調査と事前の打ち合わせを念入りに行った。来年度以降も継続する。
イ	中高6年間を見通したキャリア教育の充実を図る。	「自らの進路についてより深く考えるようになった」と答える生徒の割合： 80%	中等部：75.2% 高 校：87.9% 全 体： 81.6%	A	成果目標を達成した。今後も産官学と連携したキャリア教育に取り組む。
		講演、講義等の回数： 年間合計 10 回	中1（3回） 中2（3回） 中3（3回） 高1（2回） 高2（3回） 高3（3回） 計 17 回	A	中等部では、職業を知り、社会との繋がりを知り、学問との繋がりを知るという育成目標に沿って適宜行った。高校では、外部の講師を招聘し、話をしてもらうことで、自分の将来に向けてイメージを確立することができた。
		大学、企業等の訪問・見学等回数： 年間合計 10 回	中1（2回） 中2（1回） 中3（1回） 高1（2回） 高2（1回） 高3（3回） 計 10 回	A	中等部では、計画的にキャリア教育に取り組むことができた。高校では、大学の模擬授業などを実施した。また、研修旅行先での大学訪問も行うことができた。
ウ	自己有用感を高めるとともに、教育相談体制を充実させ、心身ともに健康な	「自分には良いところがある」と答える生徒の割合： 70%	中等部：69.0% 高 校：77.6% 全 体： 73.3%	A	成果目標を達成した。今後も、自己有用感を高めるよう取り組む。
		「自ら進んであいさつをしている」と答える生徒の割合： 80%	中等部：83.9% 高 校：83.9% 全 体： 83.9%	A	成果目標を達成した。生徒に基本的な生活習慣が定着するよう取り組む。
		教員等による交通安全	教員と交通安	A	交通安全街頭指導を定期的に行っ

	生徒を育成する。	街頭指導の実施： 学期に1回	全委員による 街頭指導：4回 PTA役員による 街頭指導：2回計6回		た。また、交通事故案についての外部からの苦情等には、迅速に現場に出て状況の確認をし、生徒への指導を実施した。
		長期欠席生徒（年間欠席30日以上）及び転退学者：0人	中等部：長期欠席者22人 高校：長期欠席者5人・転退学者3人	D	成果目標を達成することができなかった。今後も、専門家と連携しながら、全教職員で多様な生徒に寄り添い、支えていく。
		「学校に相談できる人がいる」と答える生徒の割合：80%	中等部：83.5% 高校：96.0% 全体：85.2%	A	成果目標を達成した。今後も、全教職員で対話を通して生徒を支え、信頼に応えていく。
		「保健だより」の発行：年間12回	12回発行	A	毎月発行することができた。睡眠や生活習慣に関する話題を取り上げ、基本的な生活習慣確立を呼びかけた。
エ	学校行事、部活動等の充実を図り、豊かな感性や表現力を育てる。	部活動に一生懸命取り組む生徒の割合：80%以上	中等部：89.2% 高校：83.8% 全体：86.5%	A	成果目標を達成した。今後も、部活動ガイドラインを遵守した部活動指導に取り組む。
		読書活動の取組による生徒の充実度：70% 図書館貸出数：4000冊以上	読書活動（ビブリオバトル）の取組による生徒の充実度：92.5% 図書館貸出数：4000冊以上（12月現在）	A	ビブリオバトルを開催し、読書活動の取組による生徒の充実度の向上に取り組んだ結果、図書館貸出数ともに目標を達成することができた。また、学校図書館の蔵書検索・予約を生徒の個人端末からで行うことができるようにシステムを導入した。
		「学校生活が充実している」と答える生徒の割合：80%	中等部：87.6% 高校：87.5% 全体：87.6%	A	成果目標を達成した。今後も、生徒が安全・安心を感じながら学校生活を送るための環境づくりに取り組む。
		研修旅行で「充実している」と答える生徒の割合：90%以上	中2「古都の歴史や文化のすばらしさを感じることができた」：100% 中3：ほとんどの生徒が、充実した活動を行うことができた振り返っている。 高2：96.0%	A	中2が京都・奈良、中3と高2が台湾で研修を行った。高2は、英語の授業で、学校交流する現地の高校と事前にオンライン学習をしたり、グループでテーマを絞って、調べ学習をするなどして、事前学習時間は短かったが、充実した研修となった。1人1人が積極的に行動している様子を見ることができた。今後も、充実した交流プログラムを実施する。
		「協調性、表現力、集中力が身に付いた」と答える生徒の割合：80%	中等部：81.9%	A	成果目標を達成した。今後も、「表現」の指導や学習計画の改善に取り組み、生徒の協調性、表現力、集中力を高めていく。
		芸術鑑賞、校内演奏会、公開レッスン等実施回	校内演奏会10回、校外演奏会	A	定例の校内外での演奏会に加え、日赤や教育会館でも演奏会を実施

		数：年間計 10 回以上	5 回 計 15 回		した。
		美術鑑賞、実技講習会等実施回数：年間計 10 回以上	美術鑑賞 2 回、 実技講習会 10 回 計 12 回	A	美術館での美術鑑賞に加えて、美術館の裏方ツアー、学芸員の仕事についての講義を実施。実技講習会では、本校卒業生で東京藝術大学助教授を招聘し、講義・ワークショップを実施した。
オ	郷土文化への理解を深めるとともに、地域社会や産学官の連携を推進する。	社会貢献活動や協働活動に参加したと答える生徒の割合：60%以上	中等部：45.1% 高 校：46.6% 全 体：45.9%	C	昨年度と比べて、全体で 5.3 ポイント増であったが、目標を達成することはできなかった。今後も生徒が社会と協働する活動を活性化する。
		海外交流行事等実施：1 回以上	2 回	A	成果目標を達成した。モンゴル国の高校生、フランスの芸術学校の学生と交流会を実施した。今後も、海外との交流事業を実施していく。
		実践的防災訓練実施：年間 3 回 地域防災訓練参加率：中等部 50% 高校（高 3 除く）45%	実践的防災訓練：2 回 中等部：60.7% 高 校：54.7%	B	2 学期始業式に予定していた訓練は休校のため中止となり、実践的防災訓練は年間 2 回に留まった。地域防災訓練参加率は、中等部高校ともに目標を達成することができた。
		土曜オープンスクール参加者数：年間 1,200 人 学校公式 SNS 発信数：年間 250 件	土曜オープンスクール参加者数：年間 1,166 人 学校公式 SNS 発信数：383 件（12 月現在）	B	土曜オープンスクール参加者の目標は、達成することができなかった。学校公式 SNS の発信数は、12 月末で目標を達成することができた。
		平常の清掃、学期初めと終わりの清掃及び全校清掃の徹底	丁寧な清掃活動を行った	A	南陵美化活動は 3 月に実施する。校内だけではなく三保の松原や遊歩道、海岸などの清掃を通して地域への美化意識と参画意識を高める。
カ	安心・安全な教育環境の整備、事務業務の効率化、働き方改革を含めた業務改善を行う。	例月指導検査、会計・物品事務指導検査における文書指示、注意事項：0 件	委託料における予定価格の設定の不備について：注意事項 1 件	B	誤りの原因を確認し、再発防止策を講じて事務室全体で共有した。
		学校施設、管理財産の安全確認の実施：月 1 回以上	月 1 回、計画どおりに実施した	A	定期的且つ複数の視点で施設点検を行った。適切な教育環境の維持と施設管理に関する事務部全体の意識向上を図ることができた。
		夏季休暇の取得率：100% 時間外勤務一ヶ月平均 45 時間以上の教職員数の割合を前年度より減少させる	夏季休暇の取得率：100% 時間外勤務 45 時間以上の教員数の割合：中等部：68.2% 高 校：59.0% 全 体：63.6%	C	夏季休暇は 100% 取得し、成果目標を達成したが、時間外勤務一ヶ月平均 45 時間以上の教職員数の割合は昨年度と比べて全体で 19.9 ポイント増加した。今後、業務を見直しと削減に取り組み、職場環境の改善を目指す。
		職員会議における報告の簡潔化と審議の効率	勤務時間内での職員会議の	B	4 月から 12 月までで実施した 8 回の職員会議の内、6 月に 10 分、10 月

様式第 3 号

		化による勤務時間内での会議の終了	終了： 6 回（全 8 回）		に6分、勤務時間を超過した。今後も職員会議での報告内容の精査と進行の効率化に努める。
--	--	------------------	----------------	--	--